

横須賀で学習の時間 川崎の中学生

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 倉橋准陸尉）は、1月20日（水）、中野島中学校（川崎市）が実施する「総合的な学習の時間」を支援した。

川崎市は、自衛隊の部隊や施設等も無くこれまで自衛隊への職業体験は極めて少ないのが実情であった。

しかしながら、今回11名の参加者が自衛隊に興味を持ち、海上自衛隊横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）にて職業体験に臨んだ。

参加者は、護衛艦『てるづき』の見学においてロープワーク体験、酸素ボンベを背負う体験等を行い、和やかにかつ実習では真剣な目で熱心に学習していた。参加者からは、「酸素ボンベは重く、走れない」「手旗で様々な会話ができるんだ」などの感想が聞かれた。溝の口募集案内所は「今後も多くの学生たちに直接触れ合える機会を通じて、自衛隊に関心を持ってもらえるように努めていく」としている。



艦艇見学内での訓練体験

母校で航空学生合格通知を授与

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3陸佐）は、2月3日（月）航空学生（海上要員）合格者に対する合格通知書の授与を行った。

当日は合格者の通う氷取沢高校（横浜市磯子区）に神奈川地方協力本部長（夏井1等海佐）が訪問して行った。授与に際しては、本郷校長をはじめ教頭や担任教員も参加するとともに、自衛官募集相談員である新井絹世県議会議員も激励に駆けつけ、参加者が見守る中、本部長により海上幕僚長からの合格通知書が手渡された。

この後、同校からの防衛大学校推薦試験合格者も参加して懇談が行われたが、参加者の顔ぶれに圧倒された合格者はやや緊張した面持ちで入隊に向けての夢や抱負などについて語っていた。懇談の中で本部長から自身の入隊時の体験談や当時の心境とともに、「過去に何干、何万という先輩が通って来た道。過剰に不安に感じる必要はない」との助言に対して、新井県議から「教育期間中はスマホも使用できるのか」など、現代の若者の目線に立った質問もあり入隊に向けての不安払拭の一助にもなった。

上大岡募集案内所は、「今後も学校との連携を深化させ、夢を追いかける学生をサポートしていきたい」としている。



本部長から合格通知書を受け取る合格者



激励に駆けつけた新井県議（左）と校長、担任教員（右）